

監督・競技者注意事項

7:30~8:30	チーム受付（正面入口付近）
8:15~	競技役員主任打ち合わせ
8:30~	監督会議（メインスタンド下）

1. 競技規則について

本大会は、2024年度日本陸上競技連盟競技規則ならびに本注意事項に準じて行うが年齢等を考慮し、教育的配慮のもとに進行する。

2. 練習について

- 当日の朝7時30分~8時30分まで、本競技場を一部使用できる。
 - トラック全体 1~2レーン=ジョギングゾーン
 - ホームストレート 3~5レーン=スタート練習 6~8レーン=ハードル練習（5台目まで）
 - バックストレート 3~8レーン=流し（リレーのバトン練習はできない。補助競技場で行う）
 - 走高跳はマットのみ設置し、バーの設置はしない。足合わせ等のみ行える。
 - 走幅跳の練習は走幅跳ピットを使って行える。（助走の足合わせとし、別の目的では使用できない）
- 補助競技場での練習は、全てトラック競技と同じ方向で走り、逆走は絶対にしないこと。
 - レーンを次の様に指定する。
 - 土の周回部分 =ジョギング
 - 走幅跳ピット側の直線1~3レーン（全天候レーン）=流し・リレー練習ゾーン
 - 道路側の直線 1~3レーン（全天候レーン）=スタート練習ゾーン
 - 道路側の直線 5~6レーン=ハードル練習ゾーン（ハードルは主催者で用意する。）
 - 4~6レーンの周回=ジョギング
 - フィールド内=体操やドリル等
 - 走幅跳の練習は走幅跳ピットを使って行える。（助走の足合わせとし、別の目的では使用できない）
 - 補助競技場にはハードルを指定場所に常設するのでそれを使用すること。
 - ジャベリックボール投は補助競技場では練習できない。
 - マットを使っての走高跳の練習はできない。

3. 招集について

- 招集所は、100mスタート側スタンド外側に置く。
- 招集時間は、その競技開始時刻を基準として次のとおりとする。

		招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技	100m予選・タイムレース	競技開始時刻の40分前	競技開始の20分前
	100m決勝	競技開始時刻の30分前	競技開始時刻の15分前
フィールド競技		競技開始時刻の50分前	競技開始時刻の30分前

*招集完了時刻に遅れると失格になり、当該競技に出場できなくなるので厳守すること。

(3) 招集の方法

- 選手は、まず、招集完了時刻までに、招集所にある出場競技者一覧表の自分（チーム）の名（ナンバー）を○で囲む。
- をつけた後は、招集所で待機し、競技者係から最終点呼を受ける。この際、アスリートビブスの確認をするので、アスリートビブスを付けたユニフォームを着用していること。
- 最終点呼が済むと、競技者係の誘導に従い、競技場に入る。
- リレーとフィールド競技が重なった場合、フィールド競技を優先する。リレーの一次チェックは代理の者でよい。その際、フィールド・リレー同時出場用紙を招集所に提出すること。最終点呼は他のメンバーが、フィールド競技に出場している旨、競技者係に告げる。また、選手は、それぞれのフィールド競技の審判に、リレーと兼ねていることを予め話しておくこと。選手は、可能な範囲までフィールド競技を行い、その場所から直接リレーの場所へ移動すること。リレー終了後は、直ちにフィールド競技に戻る。この場合、競技場内を移動してよい。

4. アスリートビブスについて

- アスリートビブスは、支給された大きさのまま、ユニフォームの胸と背の部分に付ける。招集所で渡される腰ナンバーカードは右腰のやや後方に付ける。（写真判定のため。）腰ナンバーカードはフィニッシュ後、その場ではずし、必ず返却すること。
- コンバインドA走高跳に出場する選手も、胸と背の両方にアスリートビブスを付けること。

5. 番組編成について

- (1) トラック競技のレーン順は、プログラム記載の通りとする。欠場者のレーンは詰めずにそのままあける。
- (2) トラック競技は5・6年男女の100m以外はタイムレースとする。

6. 競技について

(1) トラック競技

- ①リレーのオーダー用紙は、**招集完了時刻1時間前**までに招集所に1部提出すること。(競技開始1時間前ではない。)オーダー用紙は朝のチーム受付で配付する。
- ②各走者は、走り終わってからも危険防止のために自分のレーンを走り、他のレーンに入らないこと。リレー競技では、次走者の付けたスタートマークのテープを必ずはがすこと。
- ③リレー競走におけるテイク・オーバー・ゾーンは30mとする。ゾーン外から走り出してはならず、ゾーンの中でスタートしなければならない。
- ④不正出発(フライング)については、**現行ルールを適用せず、従来通り1人2回で失格とする。**
- ⑤スタートはイングリッシュコールで行う。
- ⑥スターティングブロックは、競技場備え付けの物を使用すること。(使用しなくてもよい。)
- ⑦**スタート姿勢は、クラウチングスタートを原則とする。(やむを得ない理由がある場合は、監督会議で申し出ること)**
- ⑧靴は、運動靴・スパイクシューズとし、素足は許されない。(夏季の全天候走路は火傷の恐れがある。)スパイクピンは長さ9mm以内を使用すること。
- ⑨80mハードルについて

高さ	台数	スタートから1台目まで	ハードルとハードルの間	9台目からフィニッシュまで
70cm	9台	13m	7m	11m

(2) フィールド競技

- ①コンバインド競技の走高跳・走幅跳・ジャベリックボール投の試技は2回とする。
 - ②走高跳は、マットへの着地は足裏からとし、背・腰・尻からの着地は無効試技とする。(はさみ跳び・正面跳び等とし、背面跳び・ベリーロールは禁止する。)
 - ③走高跳のバーの上げ方は下記の通りとする。(当日の状況により変更があり得る。)
- | | | | |
|----|-----------|--------------------------|---------|
| 男子 | (練習 1.05) | 1.10-1.15-1.20-1.25-1.30 | 以降3cmずつ |
| 女子 | (練習 1.00) | 1.05-1.10-1.15-1.20-1.25 | 以降3cmずつ |
- ④走高跳は、自分が申告した高さから試技を開始し、2回続けて失敗した時点で終了とする。
 - ⑤フィールド競技の試技の時間は、1分以内である。名前を呼びれてから1分以内に試技を開始しなかった場合は、無効試技(赤旗が上がる)となる。なお、走高跳で残りの選手が少なくなった場合は、この限りではない。
 - ⑥リレーを兼ねているため、フィールド競技のそのラウンドの試技を行うことができなかった選手については、パス扱いにせず、試技順に関係なく、試技を途中から継続して行うことができる。
 - ⑦ジャベリックボール投の使用球は**ジャベボール(NISHI製)**とし、15m以内の助走ができる。スパイクの着用はできる。

(3) コンバインド競技

- ①本大会におけるコンバインド競技は以下の順で行う。
コンバインドA: 80mハードル・走高跳, コンバインドB: 走幅跳・ジャベリックボール投
- ②各種目の得点は、『JAAF 小学生混成競技得点表(2022)』による。
- ③80mハードルと走幅跳における風速は得点・順位に影響しない。
- ④スタートまたは試技を行い、途中棄権(DNF), 記録無し(NM), 失格(DG)および参考記録の場合は、0点とする。
- ⑤1種目目に出場し、途中棄権(DNF), 記録無し(NM), 失格(DG), 参考記録の場合、2種目目の出場は可能とする。
- ⑥1種目目で棄権した競技者は、2種目目には出場できない。
- ⑦2種目の合計得点で順位を決定する。合計得点が同点の場合は、同順位とするが、1位が同点の場合は、全国大会代表選手を以下のようにして決定する。
 - (ア) 2種目の順位の数字を足した順位点が上位の選手。
 - (イ) (ア)においても同点だった場合、2種目のうち、高い種目の得点どうしを比較し、得点の高い選手。
 - (ウ) (イ)においても同点だった場合、2種目のうちどちらかの種目を選択させて実施し、得点の高い選手。
 - (エ) (ウ)においても同点だった場合は抽選で決定。

(4) その他

- ①選手は、競技場内に、携帯電話・トランシーバー等の通信機器や、ミュージックプレイヤー等の機器を持ち込むことはできない。
- ②競技中の監督からの助言について
監督がコーチングエリアから選手に指示を出すことは、競技運営上や他の選手の妨げにならない範囲で認められている。この場合、選手はコーチングエリア近くまで移動することはできるが、競技運営の妨げにならないように十分注意すること。
- ③トラック種目の代表決定において1/1000秒まで同記録だった場合は、状況に応じて決定戦を行う場合もある。

7. 抗議について

競技の結果に関する抗議は、**30分以内に監督が総務を通して審判長**に行う。個々の審判員に抗議をすることはできない。また、抗議は監督のみが行うことができ、保護者の抗議は受け付けられない。正式な発表とは、放送による発表を指し、これ以降(大会終了後も含めて)の抗議は一切受けない。

8. 表彰について

表彰は、全競技終了後、15時00分から、メインスタンド前で行う。8位までの入賞者は、競技時の服装(ユニフォーム)で集合すること。

- (1) 8位までの入賞者に賞状を授与する。(リレーの賞状はチームで1枚)(男女別リレーは3位まで)
- (2) 3位までの入賞者にはメダルを授与する。
- (3) 混合リレーはエントリーしたメンバー全員が対象なので、メダルも6人に授与する。
- (4) 1500mについては学年別3位まで賞状を授与するが、表彰式は行わない

9. 全国大会等について

- (1) 100m, コンバインドA, コンバインドB, 混合400mリレーの各優勝者・優勝チームは、第40回全国小学生陸上競技交流大会(9月21日(土)~23日(月)東京・国立競技場)に岩手県代表選手として派遣する。
- (2) 表彰式終了後、全国大会について説明会があるので、該当する指導者・保護者は、表彰を受ける選手と同じ場所に集合すること。(2階 会議室)
- (3) 優勝者が全国大会を辞退した場合、2位以下の選手が県代表となる。(辞退する場合は速やかに総務に申し出ること)
- (4) 全国大会では、3日間岩手県選手団として同一行動をとらなければならない。他のスポーツや行事との関わりなどで、途中からの参加、途中での帰宅、別交通機関での移動などは一切認められない。
- (5) 本大会の入賞者(8位以内)は、8月4日(日)北海道・函館市千代台公園陸上競技場において開催される第13回東日本都道府県小学生陸上競技交流大会の出場権を得る。(1500mのみ学年別3位以内・詳細は別紙・辞退等あっても繰り上げはしない)

10. その他

- (1) 全ての結果をアナウンスすることは出来ないで、メインスタンド正面玄関前の掲示板に表示する。
- (2) メインスタンドへのテント等の設置は禁止する。また、メインスタンドへの横断幕・のぼり等の掲示もできない。
- (3) スタンド通路、最前列で立って応援することは絶対にないようにすること。
- (4) リレーや助走のマーク(テープ)は、各自責任をもってはがすこと。